

第9回 はまはく講座

R6.8.4

浜松の古墳時代 ～天竜川西岸域を中心に～

浜松市博物館 鈴木京太郎

はじめに

1 古墳時代における集落の状況

2 古墳の様相 ～天竜川西岸域を中心に～

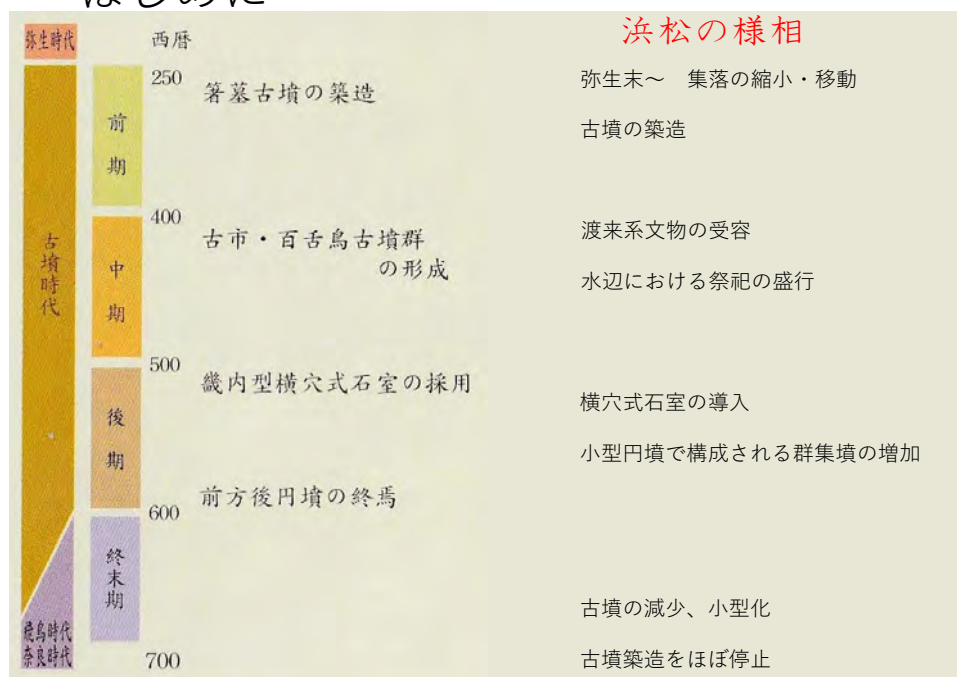
(1) 築かれた首長墓

(2) 積石塚と横穴式石室の普及

3 出土遺物にみるくらしの変化

おわりに

はじめに



1 古墳時代における集落の状況

弥生時代後期 平野部の微高地中心に多数の集落が展開



弥生時代末～古墳時代

より安定した微高地もしくは台地の上に
集落の分布が移り、数も減る

環境の変化（湿潤化による洪水や湿地化）

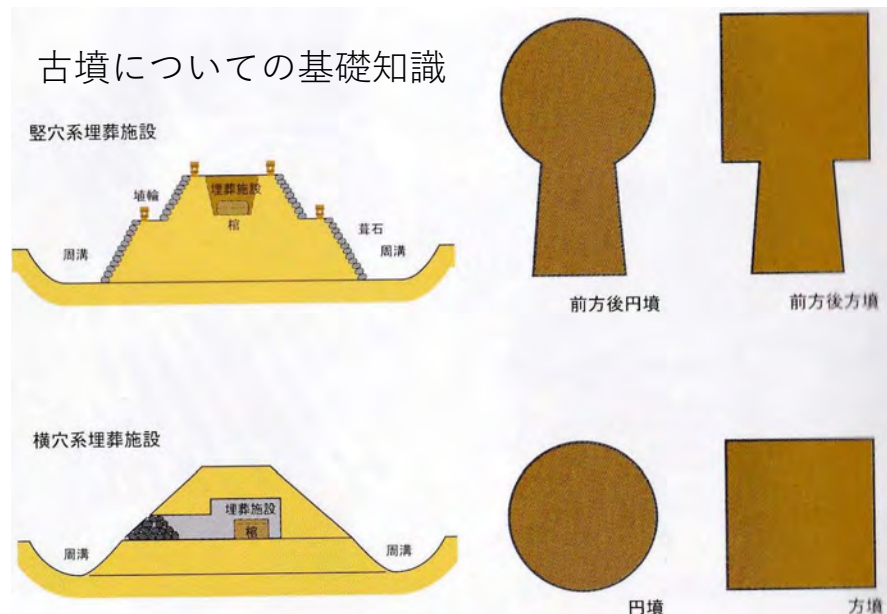
+

社会の変化（集落の再編）



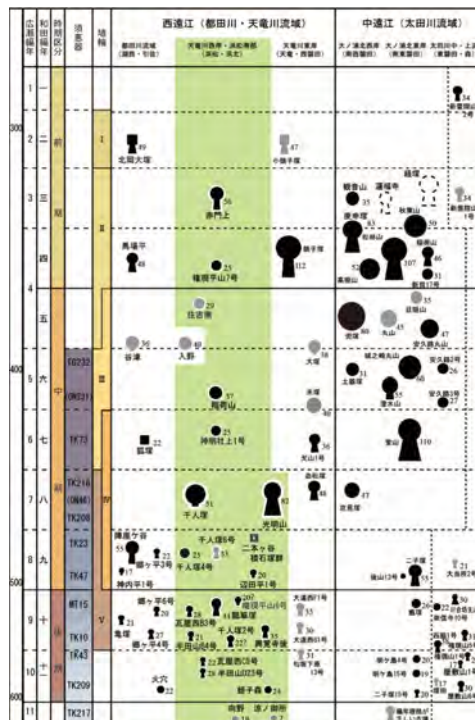


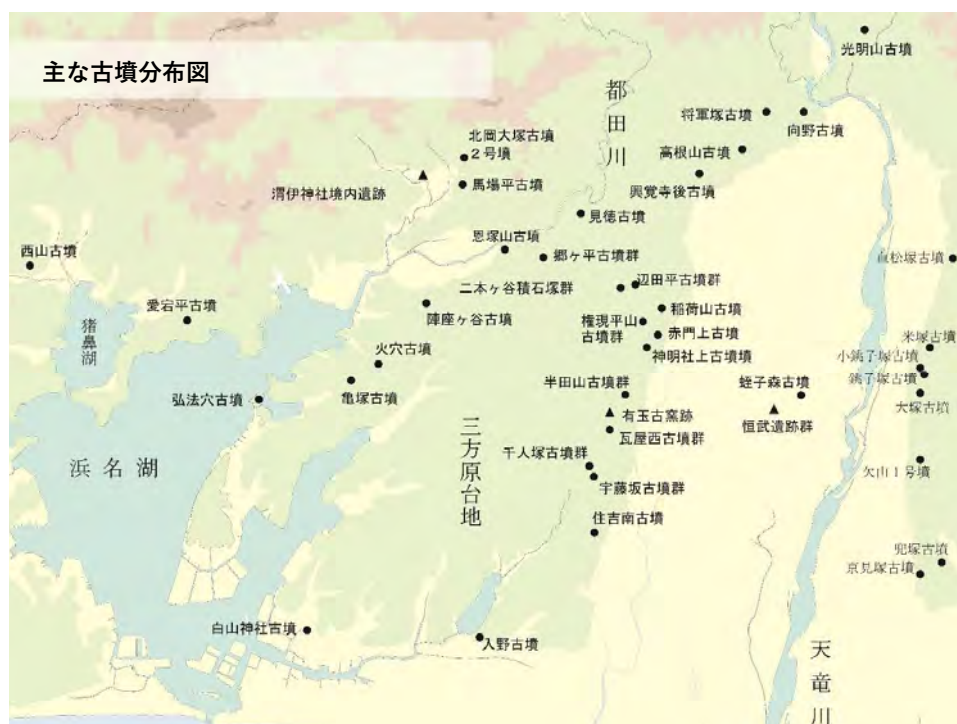
2 古墳の様相 ～天竜川西岸域を中心に～



西遠江における古墳の変遷

- ・前期の初め頃は、弥生時代に引き続き方形周溝墓を築造
- ・前期半ば頃前方後方墳を築造
- ・前期後半に最初的前方後円墳
- ・中期末まで前方後円墳がない
- ・中期末～後期に小型前方後円墳が増加
- ・後期後半から横穴式石室の本格的普及、多くの小型墳で構成される群集墳が急増





(1) 築かれた首長墓

古墳時代前期後半以降、ヤマト政権の影響のもとで、首長の墓として前方後円墳や中大型の円墳が築造。

その後、中期末から後期前半にかけては、小型の前方後円墳が増加→ヤマト政権の支配が細部に浸透

中期半ばから後期中頃にかけては、埴輪を墳丘上に立てる古墳が増加。



赤門上古墳（浜名区内野）

墳 丘 前方後円墳（全長56.3m）
 立 地 三方原台地東縁
 埋葬施設 木棺直葬（割竹形木棺）
 出土遺物 三角縁神獣鏡、銅鏃、大刀、
 鉄剣、鉄斧、鉄鎌など

墳丘の形態や規模に加え、畿内との関係の強さを示す副葬品から、天竜川西岸域を治めていた首長の墓と目される。



埋葬施設



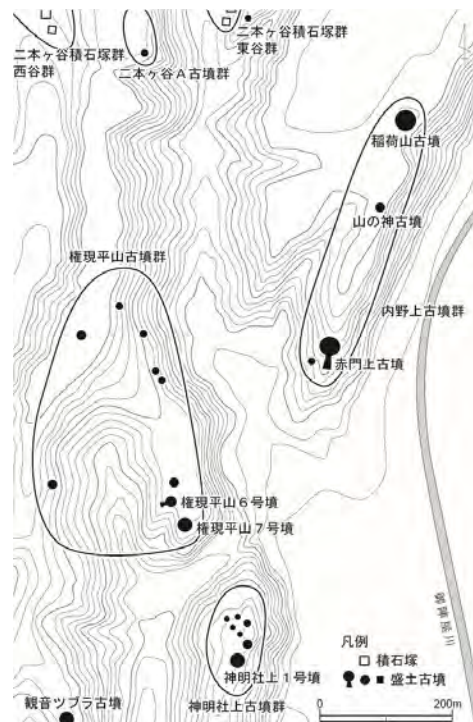
三角縁神獣鏡

- ・縁の断面が三角形で、神仙と霊獣の文様が配されている
- ・古墳時代前期の、東北～九州の有力首長墓から出土。
- ・ヤマト政権が政治的連携の証として、各地の有力首長に配布したと考えられている。
- ・中国で発見例がなく製作地には主に2つの説。（中国で作られたものが渡来し、後に国内で模倣されたという説と、中国から渡来した工人により国内で製作されたという説）。
- ・他の中国鏡よりやや大型で、同范鏡が多数存在する。
- ・多数面をまとめて副葬することがある。



内野地区における 前中期の中型円墳

- ・前期末～中期後半に葺石をもつ中型円墳が複数築かれる。
- ・赤門上古墳の被葬者に続く有力者の墓とみられる。
- ・前方後円墳は、後期末までみられない。



権現平山7号墳（前期末）
赤門上古墳の近くに築かれ
埋葬施設や副葬品も類似



稲荷山古墳（中期前半）
直径37mは内野古墳群最大



神明社上1号墳（中期前半）
埋葬施設2基から銅鏡等出土



観音ツブラ古墳（中期中頃）
埋葬施設から大刀等出土

光明山古墳 (天竜区山東)

墳 丘 前方後円墳（全長83m）
葺石と埴輪あり
立 地 二俣川を見下ろす丘陵上
埋葬施設 未調査
出土遺物 埴輪（円筒・朝顔）

- ・当該時期の遠江で最大の墳丘
- ・墳丘形態に畿内の古墳との類似性
- ・天竜川下流域に広く力を及ぼしていた首長の墓と目される。
- ・南側に造り出し付き円墳の2号墳が立地（消滅・遺物未発見）



明治期の地形図 (光明山古墳 と主要道を加筆)

- ・天竜川に近く、東西・南北の主要道も付近を通過する交通の要衝





左上：後円部葺石の状況
 左下：墳裾の基底石の列と
 転落した埴輪
 右上：出土した円筒埴輪と
 朝顔形埴輪

千人塚古墳（中央区有玉西町）

墳	丘	造り出し付円墳 (直径49m) 葺石と埴輪あり
立	地	三方原台地の東縁
埋葬施設		木棺直葬2基
出土遺物		三角板革綴衝角付 冑、三角板革綴短甲、 鉄剣、大刀、鉄鏃、 鉄斧、斧頭形石製品 など

造出しからも鉄製の武具などが
 出土→軍事的な色彩の強い被葬
 者像





左上：墳丘
左下：円筒埴輪
右上：主な副葬品

千人塚古墳群

- ・三方原学園の敷地内に9基の古墳が点在
- ・5世紀後半に4号墳や6号墳が築かれる
- ・6世紀前半に瓢箪塚古墳（1号墳）や、2号墳が築かれる

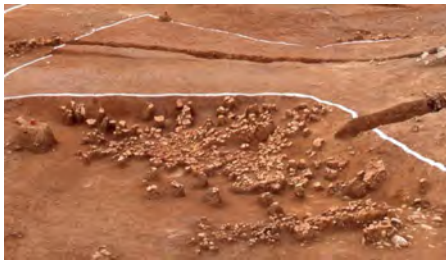


4号墳出土七鈴鏡



辺田平 1 号墳（浜名区染地台六丁目）

墳 丘 前方後円墳
（全長20m）
埴輪あり
立 地 三方原台地東縁
埋葬施設 礫床
出土遺物 形象埴輪、円筒
埴輪、刀、鉄鏃、
勾玉等



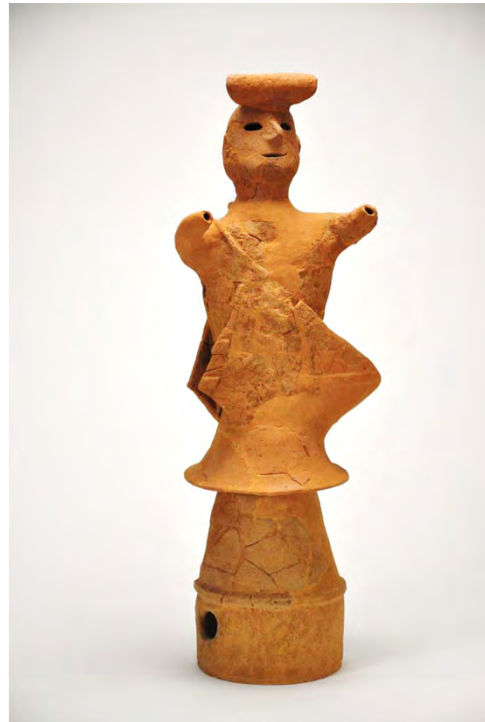
鹿形埴輪と弓引き人物（狩人）埴輪

- ・ 神聖な動物である鹿の狩りは祭祀的な意味合いを有する
- ・ 「見返り」のしぐさがよくわかる鹿形埴輪は全国で数例
- ・ 弓を引く所作をしている人物埴輪は本例以外未確認



人物埴輪

- ・女子埴輪は巫女とみられ、儀式の様子を再現する埴輪群像でよくみられる。
- ・腕の先を欠失するが、何かを捧げ持っているともみられる
- ・他の人物埴輪には以下のものがあり、腕の破片数などから10体以上の人物埴輪が存在したとみられる
 - ・巫女（数体）
 - ・甲冑をつけた武人
 - ・あぐらをかいした人物
 - ・帽子を被った人物
 - ・その他男子



鳥形埴輪

- ・にわたりのつがいの埴輪（左が雄、右が雌）
- ・時を告げる鳥として、神聖視され形象埴輪にみられる



(2) 積石塚の登場と横穴式石室の普及

- ・五世紀には、朝鮮半島から新たな文化や技術がもたらされた。
- ・渡来した人々の墓と考えられる積石塚が築かれた。
- ・六世紀半ば以降の埋葬施設には横穴式石室が導入された。

広瀬 編年	和 田 編 年	時 期 区 分	須 恵 器	埴 輪	西遠江（都田川・天竜川流域）			中遠江（太田川流域）		
					都田川流域 （湖西・引佐）	天竜川西岸・浜松南部 （浜松・浜北）	天竜川東岸 （天竜・西磐田）	大ノ浦北西岸 （南西磐田）	大ノ浦北東岸 （南東磐田）	太田川中・上流 （東磐田・森）
500	8	九	TK23 TK47	V	陣座ヶ谷 55 郷ヶ平3号 17 神内平1号	千人塚6号 25 千人塚4号	二本ヶ谷 33 積石塚群 20 辺田平1号	後山13号 55	大当所2号 21	
					郷ヶ平6号 21 郷ヶ平4号	28 瓦屋西B3号 21 半田山B4号	207 権現平山6号 44 瓢箪塚 千人塚2号 22? 興覚寺後 35 大道西F1号 35 大道西G1号 31 勾坂下原 13号	26 飯塚 22 川合坊主山 崇信寺10号 西蔵1号 31 権現山5号 38	明ヶ島4号 20 明ヶ島15号 19 二子塚15号 20	権現山1号 20 屋敷山1号 17 屋敷山5号 30 屋敷山8号
600	10	十一	TK10 TK43 TK209		火穴 22	22 瓦屋西C5号 28 半田山D23号	24 蛭子森			
						向野 18 涼ノ御所 ?				福年根根が 乏しい古墳
11			TK217							

積石塚の特徴と構造

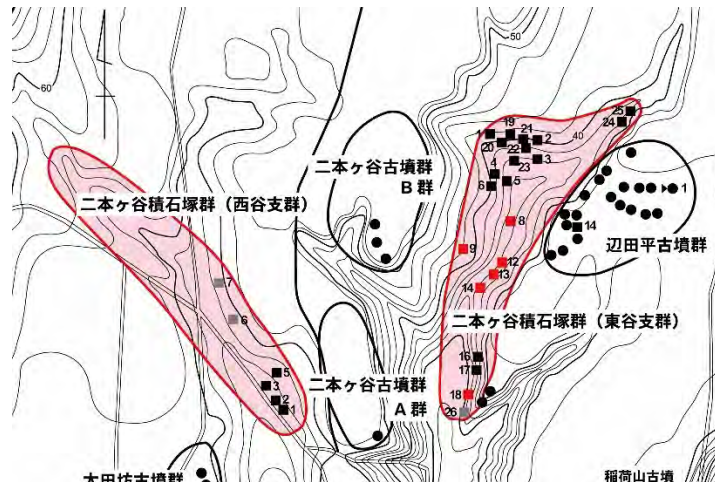
- ・古墳の墳丘を土ではなく石で築いたもの
- ・国内の積石塚からは朝鮮半島産の遺物も伴う例あり
→渡来してきた人々の墓と目される
- ・盛土の古墳が丘陵の上に立地することが多いのに対し、
積石塚は谷など、築く場所が分けられている例がある

積石塚の構造模式図



二本ヶ谷積石塚群（浜名区染地台五丁目ほか）

- ・三方原台地東縁の2つの谷に、東谷22基、西谷6基が確認
- ・墳丘は円礫で築かれ、一辺数m程度の方墳が多い
- ・埋葬施設は竖穴系で、側面に石や粘土を施す例がある
- ・特殊な墳丘構造や立地状況などから 渡来系の集団によって築かれた可能性が高い



二本ヶ谷積石塚群（東谷群）の立地状況



東谷 1 号墳



東谷 2 号墳



東谷 4 号墳と出土遺物（右）



谷から上がった積石塚

二本ヶ谷積石塚群が立地する谷に隣接した丘陵上では、辺田平古墳群が5世紀中頃から築かれている。

二本ヶ谷積石塚群の築造が停止する6世紀前半に、辺田平古墳群内に積石塚が現れ、盛土古墳の埋葬施設も変容する。

こうした状況は、積石塚を築いた人々の次世代が、在地の集団と融合していった可能性を示す。

積石塚の辺田平14号墳
（中央上）と後続して築
かれた12・15・16号墳



横穴系の埋葬施設

横穴式石室導入期の6世紀前半～中頃には多様な横穴系の埋葬施設がみられる。

横穴式木室は、木や粘土で墓室を構築する。

縦穴系の埋葬施設に横方向の出入口を設ける例も確認。



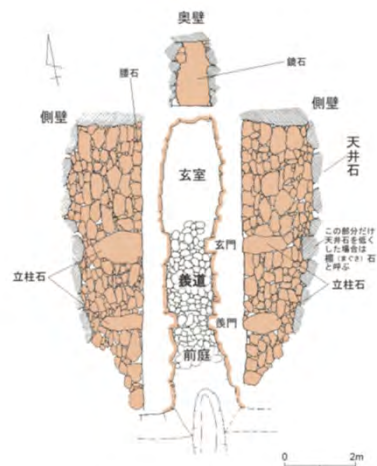
横穴式木室（瓦屋西B5号墳）



出入口のある埋葬施設
（辺田平12号墳）

横穴式石室の普及

- ・石を積み上げて造られた部屋に横方向の出入口がついているため、何度も埋葬することが可能
- ・5世紀に朝鮮半島から日本列島に伝わると、天竜川西岸域では古墳時代後期の6世紀後半～7世紀に普及
- ・当該時期における大半の古墳で横穴式石室が用いられる

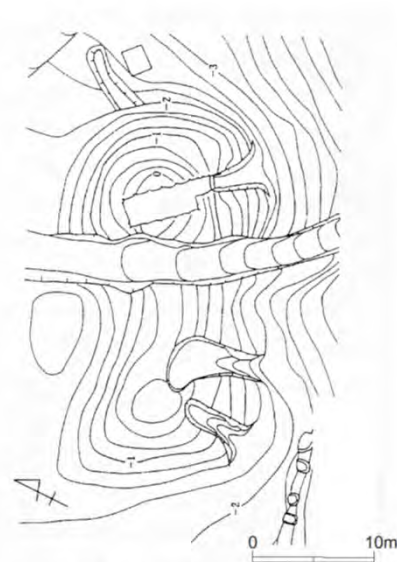
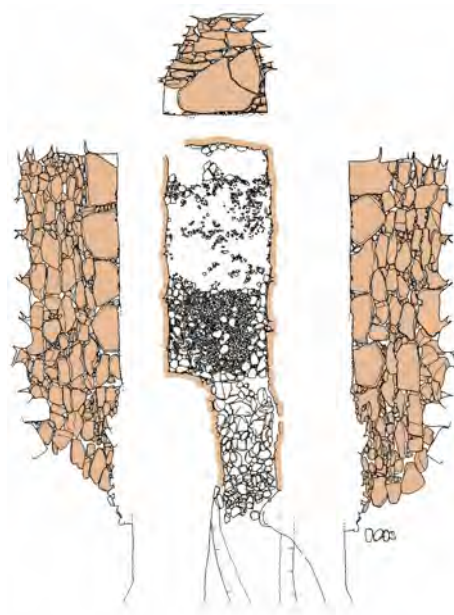


横穴式石室の部位名称

モデル：見徳古墳

興覚寺後古墳 (浜名区宮口)

墳 丘 前方後円墳
(全長35m)
立 地 天竜川平野北側
の丘陵
埋葬施設 後円部に片袖式
の横穴式石室
出土遺物 金銅装の馬具や
大刀など
・天竜川西岸域で最初に横
穴式石室を導入

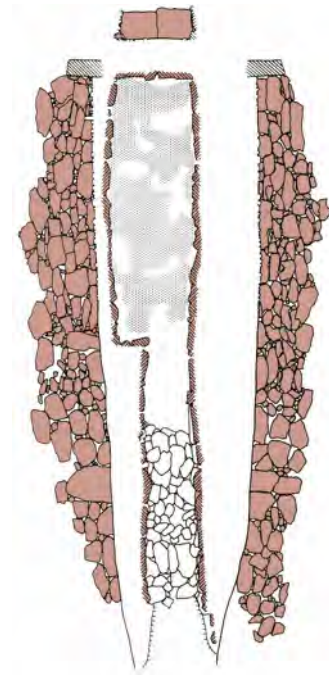


興覚寺後古墳 墳丘図

蛭子森古墳（中央区豊町）

墳 丘 円墳（直径24m）
 立 地 天竜川平野の微高地上
 埋葬施設 右片袖式の横穴式石室
 出土遺物 馬具や大刀、勾玉、耳環
 鳥形装飾付須恵器

特異な立地や、装飾須恵器の出土から、特殊な役割や立場にあった有力者の墓と考えられます。



半田山古墳群

(中央区半田山一丁目ほか)

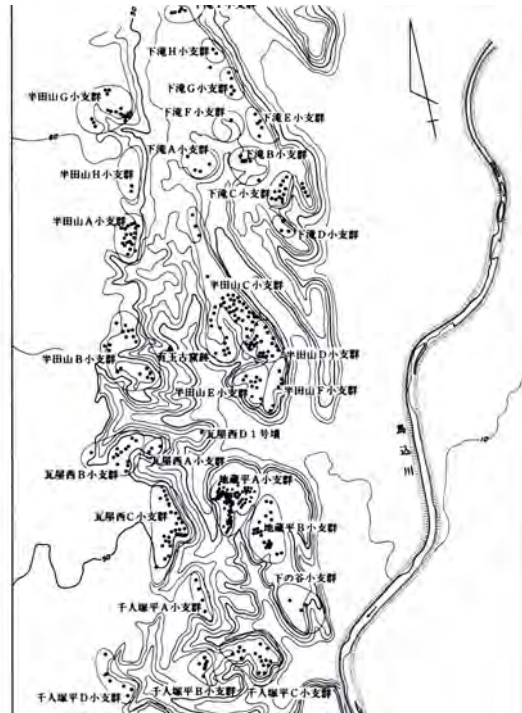
- ・ 150基程度がA～Hの支群に分布
- ・ 分布範囲が広く、各支群に時期差があり、6世紀前半～中頃に横穴式木室が導入された後、6世紀後半～7世紀中頃に横穴式石室の古墳が盛んに築かれる。
- ・ 一部では8世紀代まで古墳の築造が継続。



半田山C～F古墳群分布図

三方原台地東縁の後期群集墳

半田山古墳群、下滝古墳群、瓦屋西古墳群、千人塚平古墳群など、横穴式石室を有する小型円墳を中心に構成される後期群集墳が6世紀後半以降に急激に増加



向野古墳 (浜名区根堅)

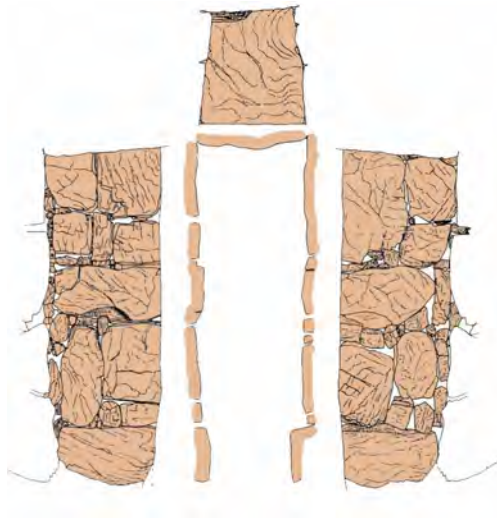
墳 丘 円墳（直径18m）
立 地 天竜川平野北側の
河岸段丘

埋葬施設 横穴式石室

出土遺物 未確認

石室は巨大な割石で築かれ、
畿内の切石積みの石室との類
似性がうかがえる。石室形態
から7世紀前半頃に築かれた
と推測。

付近に存在した涼ノ御所古墳
(消滅)からは、向野古墳と
同じ構造の石室から金銅製冠
帽が出土したと伝わる。



左 向野古墳石室

上 伝涼ノ御所古墳出土
金銅透彫金具（複製）
原品は神宮徴古館蔵
（重要文化財）
※冠帽のつばの部分

3 出土遺物にみるくらしの変化

5世紀に朝鮮半島から渡来した人々は、窯業、金工、鍛冶、機織など、技能を生かした活動に従事した。

また、乗馬、かまどなどの風習も持ち込まれ、生活様式に大きな影響を与えた。

各地の首長層は先進的な技術を獲得しようと積極的に渡来人を受け入れたとみられ、出土品等から渡来文化の受容の一端をうかがうことができる。



移動式かまどと調理具

有玉古窯跡 (中央区半田山二丁目)

三方原台地東縁で6世紀前半～中頃に須恵器を焼いた窯跡。

5世紀初め頃に朝鮮半島から須恵器製作技術が日本列島に伝わると、6世紀に地方でも生産が進む。

瓦屋西古墳群や辺田平古墳群等から出土する須恵器は、有玉古窯跡で焼かれたものが確認されている。



乗馬の風習と馬具

5世紀に乗馬の風習が渡来すると日本列島内で急速に広まる。各地で馬の飼育や生産が行われ、馬具が副葬品として古墳から出土する。馬具は威信財としての側面も有し、有力者の古墳からは、渡来した高い金工技術で作られた金銅装の馬具が出土する。6世紀後半以降は、乗馬の普及に伴い実用的な鉄製馬具の副葬が増加する。



蜷塚3号墳出土の副葬品
(左寄りが金銅装馬具)

古墳時代のくらし

弥生時代に天竜川平野の微高地に点在していた集落は、古墳時代を迎えると衰退し、様相は不明瞭となる。そうした中で、恒武遺跡群では古墳時代の遺跡が集中する。

恒武遺跡群

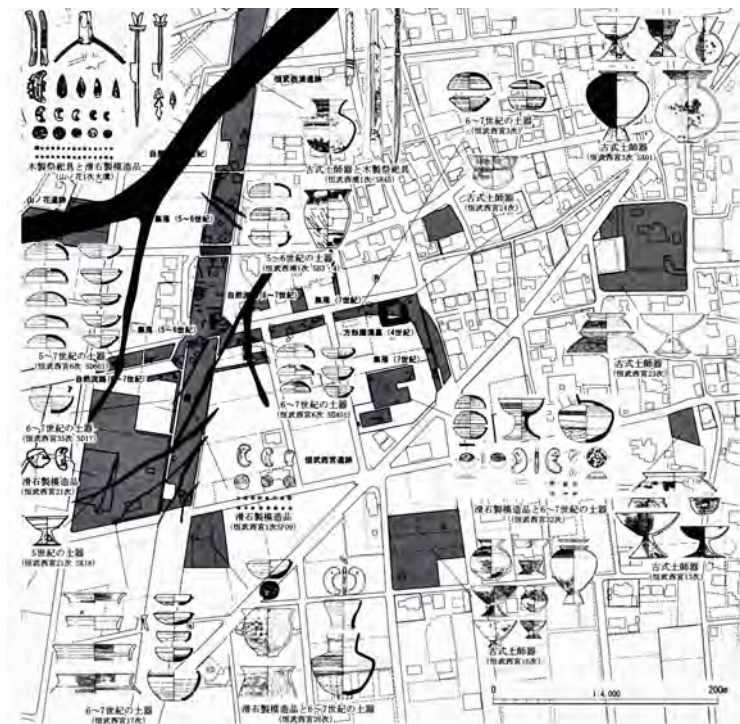
(中央区恒武町ほか)

古墳時代前期～後期（4世紀～7世紀）。

恒武遺跡群（山ノ花遺跡、恒武西浦遺跡、恒武西宮遺跡、笠井若林遺跡等）は、天竜川西岸域の古墳時代の拠点的な集落。

特に山ノ花遺跡の発掘調査では、恒武大溝という河川跡が検出され、5世紀を主体とするおびただしい量の遺物が出土している。





水辺の祭祀

山ノ花遺跡の発掘調査で検出された恒武大溝からは、蓋や儀仗形製品、刀装具など有力者の関与をうかがわせる祭祀的な遺物が出土している。また、多くの石製模造品や鹿角製の刻骨なども出土している。このような遺物群の様相から、5世紀前葉頃に大溝のほとりで地域の首長による祭祀が行なわれていた状況をうかがうことができる。





儀仗形木製品



滑石製模造品

生活・生業の道具

恒武大溝出土の土器は、大量の土師器とともに、当時としては貴重で所有者が限られる初期須恵器がまとまって出土している。木製品では農具や機織具など生活用具が出土している。また、石製品では砥石、紡錘車などが出土している。

初期須恵器

須恵器生産が始まった5世紀前半頃の陶邑窯跡群（大阪府堺市）で焼かれた須恵器が、恒武大溝から出土している。まだ流通量が少ない貴重な須恵器を入手できる有力者の存在がうかがえる。



おわりに

- ・ 弥生時代から古墳時代の移行期に集落の大きな再編
- ・ 前期後半に赤門上古墳が築かれて以降は天竜川西岸域で、前方後円墳が約1世紀間築かれない→中遠江との関係
- ・ 中期後半の積石塚に渡来人の足跡がうかがえる
- ・ 中期末より小型前方後円墳の増加→ヤマト政権の影響が細部に及ぶ
- ・ 後期の横穴式石室と渡来系文化の普及

